

会 議 概 要

1 会議名	令和6年度 第3回 笠間市子ども・子育て会議
2 開催日時	令和6年11月14日(木)午後3時から
3 開催場所	市民センターいわま 2階会議室
4 出席者	笠間市子ども・子育て会議委員15名(欠席5名)、事務局
5 会議資料	・会議次第 ・資料1 第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画の素案
6 会議の概要	1. 開 会 2. 会長のあいさつ 3. 議 事 (1)第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画の素案について (2)その他 4. 閉 会

<議 事>

(1)第3期笠間市子ども・子育て支援事業計画の素案について

【資料1に沿って事務局より説明】

○第1章、第2章、第3・4章で、資料1に沿って事務局より説明。

○第1章 計画の基本事項(計画策定の趣旨や概要、計画の策定体制)、第2章 こども・子育て家庭を取り巻く状況(人口動向、子ども・子育て支援事業の実施状況、アンケート調査から見られる状況、子育て環境、子育て支援の課題)、第3章 計画の基本方針(計画の基本理念、基本目標、施策の体系)、第4章 計画の内容(基本目標1 教育・保育サービスと地域子ども・子育て支援事業の推進、基本目標2 総合的な子育て支援の推進とこどもの育成支援、基本目標3 こどもの貧困の解消に向けた対策の推進)の内容について

【第1章】

○アンケート調査の実施状況について骨子案に追記している。

○市として今年度新設したこども部を中心に、関係機関と連携しながら子育てに関する取り組みを推進していくことを記載している。

【第2章】

○6ページ、令和5年の年少人口、年少人口割合の数字を修正。年少人口は令和5年から8,000人を下回り、令和6年の年少人口割合は10.6%となっている。

○7ページ、18歳未満のこども数は令和2年に1万648人だったが令和5年は1万人を下回り、令和6年は9,577人である。出生数は令和3年まで400人以上で推移していたが、令和4年は381人となっ

ている。人口推計が多めに出ていたことから骨子案の人口推計を見直し、改めて推計値を出している。

○8～11 ページ、世帯数、婚姻状況、就業状況、既婚女性の就業率等、国勢調査の結果をもとに記載している。

○地域子ども・子育て支援事業の 13 事業について、令和6年度の実績が入っていないものがあるが、最終的には数字を入れていく。

○26 ページ、課題4は、こどもの貧困の解消に向けた対策の推進ということで骨子案から変更している。こどもの貧困については保護者やこどもが自覚していなかったり、困り感がないため自覚があっても求めにくい。こどもの成長段階における支援が切れ目なく行われるように施策を推進しながら、支援のネットワーク化を組んでいければという課題となっている。

【第3章】

○施策の体系の表を追加した。

【第4章】

○教育保育の見込み量と提供体制は、ニーズ調査の結果や、近年の利用状況を踏まえて、量の見込みを推計した。1号認定2号認定は、こども数の減少に合わせ減少を見込み、3号認定は利用率の高まりを踏まえ利用者数を見込んで、提供体制を確保する。現行の幼稚園、認定こども園、保育所等を中心に利用できる体制を確保していく。

○放課後児童健全育成事業について、現在市の児童クラブは、施設の定員数はあるが学年ごとの定員設定はしていない。低学年・高学年ともに利用登録者が増えており、こども数は減少傾向にはあるものの利用者数が増えるという形で計画期間の量を見込んでいる。今後、利用ニーズを踏まえ、民間事業者や公設の児童クラブと協力しながら提供体制の確保を図っていきたい。

○51 ページ、こどもの居場所づくりとこどもに寄り添う支援の推進について、前回の会議で意見の出たこども食堂の支援について追記している。

○こどもの貧困の解消に向けた対策の推進について、市の集計では低所得に該当する世帯は 8.8%程度とアンケート結果で想定している。ただ家計のひっ迫やこどもの体験機会、所有物の様子などを加えて集計すると、困窮家庭、または周辺家庭としては 22.9%の割合になってくると考えられる。

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
【第1章】 意見なし 【第2章】 ・6ページ、生産年齢人口は年齢で分けているのか、あるいはと就労しているかどうかで分けているのか。定年の年齢が上がっていることも影響しているのかと思った。 ・アンケートは周辺市町村と比較できるとよい。 ・8ページなどの世帯数等は国勢調査の数字だが、これは市の数字か。 【第3章・第4章】 ・50ページ、アンケートで「ほっとできる場所」について聞いている中に放課後子ども教室とある。笠間市ではやっていないと思うが、これは放課後児童クラブのことなのか。 ・放課後児童クラブの申し込みは低学年が優先となっている。低学年・高学年ともに利用者登録が増えていとあるが、低学年が優先されるのか。 ・42ページに、ほめ方トレーニングについての記載がある。しかり方教室というのはないのか。こどもの頭を人前で叩きながら怒っている親を見たことがあるが、家でもやっているのではないかと感じた。 ・47ページの通学支援事業にヘルメット配布がある。自転車通学の場合、雨合羽が必要だが、配布されているのか。 ・値段が高いし、そのままにしておくとかびてしまうようだ。雨合羽が高くて購入しにくいという相談等はあったか。 ・32ページ、③実費徴収に係る補足給付を行う事業と④多様な事業者の参入促進・能力活用事業に表は入るのか。他の事業は量の見込みと確保方策の考え方に実績等があるので、体裁を整えた方がよいと思う。 ・57ページの低所得の表で、小5、中2の割合がおかしい。	・年齢で取っている。15歳から64歳が生産年齢人口となっている。笠間市は生産年齢人口の割合が高い状況を維持している状況である。 ・検討する。 ・市の数字である。 ・放課後児童クラブとは別のものである。 ・申し込みは全学年受け付けており、状況を踏まえて入所判定しているが、公設では低学年を優先している。 ・しかり方教室というのはいっていない。どのように伝えたら子どもにとって効果的かということで、ほめ方や関わり方を伝えている。 ・雨合羽の支援はしていない。個々に用意している。 ・そのような相談等はない。 ・③④に量の見込みは入れない。「今後対応していく」という文言をいれるが、数字を入れる予定はない。 ・修正する。

意見・質問等(委員)	回答(事務局)
・32 ページ、③の表で実績が7～8だったのが令和5年度は1となっている。何かしら計画の変更があったのか。 ・57 ページ、アンケートは保護者とこどもの両方に聞いているということだが、表は保護者の数字のみとなっている。こどもの回答も載せるのか。 ・保護者という書き方のみだと、こどもの回答はどうなっているのかと感ずるので、表記を工夫してほしい。 ・この冊子を見て、こどもが小さいときにこのようなものがあればよかったと思った。施策などがまとまっていて一目でわかりやすくてよい。全家庭に配布するのか。	・実績が1だった。計画を変更したわけではない。 ・保護者とこどもの回答を合わせ、世帯の困窮の状況ということで算出している。 ・世帯ということで修正する。 ・配布の予定はないが、ホームページで公開する。また、できたことを週報などでお知らせする。

○次回の会議開催 令和7年2月または3月に予定(日程は未定)